平成 17 年 4 月 23 日

倶進会公開セミナー「思想史的背景からみたブッシュ政権」に参加して

現在国際キリスト教大非常勤講師を務める中岡望氏の講演である。内容はアメリカの思想が保守主義とリベラルの相克の歴史であるという観点から、現在のブッシュ政権について、そうした長期的かつ思想的な背景から理解しないと、その本当の意味は理解できないと主張する。そして、ブッシュ政権成立にいたるアメリカの思想状況と、２００４年の大統領選挙の結果を踏まえたブッシュ政権の現状と展望を話された。講師の近著「アメリカ保守革命」中公新書　２００４．４．１０をベースにしていると思われる。講演では歴代の大統領や現在のブッシュ政権の多くの要人の歴史的必然性について説得力のある解説をしてくれた。

米国人の 9 割が神を信じており、米国の民主主義は神が与えたもので世界最高のシステムであると考えているという説明に認識を新たにした。

出席者から日本の常任理事国入りについて意見を求められたところ、日本の分担金（20%）は米国に次ぎ、その他の常任理事国 4 ヶ国の合計（16%）より大きい点から資格はあるだろうが、周辺各国の反対に対してなぜ常任理事国入りかについて説明がなされていない。米国も日本の常任理事国入りを支持するとしても拒否権は認めない立場であり、常任理事国入りの意義が明確でないと言う説明があった。

日米の先般行われた 2+2 会議において従来の「日本周辺域」と言う表現が「台湾海峡」と言う明確な表現になったことは中国関係に大きな影響が懸念される。

日本の経営について社長が次期社長を選ぶと言う縮小再生産が戦後続けられてきており Open Competition（開かれた競争）の欠如が戦略の欠如に繋がっていることを危惧していた。

中岡望氏の略歴は次の通り：１９４７年広島県生まれ。１９７１年国際キリスト教大卒。東京銀行を経て７３年東洋経済新報社に入社、編集委員等を勤め、２００２年退社。８１～８２年フルブライト・ジャーナリスト、ハーバード大学ケネデイ政治大学院のフェロー。９３年ハワイの大学院大学イースト・ウエスト・センターのジェファーソン・フェロー。２００２～０３年ワシントン大学（セント・ルイス）ビジテイングスカラー。現在フリージャーナリスト。

現在国際キリスト教大の学部で「日本社会と企業」（英語）、「アメリカ研究」（日本語）、大学院で「日本経済論」（英語）、「国際経済論」（英語）を担当。

下記のブログを御参照下さい

http://www.redcruise.com/nakaoka/